

小学1年生から3年生の誤用

鈴木雅光

1 はじめに

本稿は、英語のネイティブスピーカーの子供が書いた英語に、どのような誤用があるのかを調査したものである。データ⁽¹⁾は、小学1年生から3年生が書いたe-mail（電子メール）を利用した。

2 誤りの原因

投稿された文書には綴りの誤りと文法的な誤りが観察される。ウェブサイトの管理者は投稿者に誤りを避けるように注意を促している。例えば、Kids on the Netのホームページ (Enter My Writing) には次のようにある。

Your writing : Please check that spellings and grammar are as good as you would wish, and that you haven't made any typos. Writing that needs a lot of editing will not be accepted for the website. Entries all in capitals will not be published.

（投稿文書：綴りと文法が望み通りに適切かチェックして下さい。また誤植を犯していないかチェックして下さい。校訂を多く必要とする文書はウェブサイトでは受け入れられません。すべて大文字で書いたものは発表されません）

このような注意にもかかわらず、間違いが観察される。この原因は何か。綴りの誤りに関しては、不注意によるものが多い。これは推敲をしないことがあげられる。紙の上を書く文章と違って画面上に書く文章は、推敲にかかる時間や労力が少ないようである。

文法的な誤りに関しては、まずこの年齢だと文法がきちんと身に付いていないということがあげられよう。年齢的に文法を一通り身に付ける年齢になっていないから仕方がないとも言える。

注意すべきことは、誤用の中には、意図的に間違える場合があり、e-mailには意図的な間違いと思われるものが多く観察されることである。これは単純な誤りと区別する必要がある。

従って、‘e-mail’ というレーベルを設定すれば、誤りと言えないことになるかもしれない。ただe-mail特有の文体や語法は出現したばかりであり、それが今後も生き続けて1つのジャンルとして確立していくのかは、後から振り返ってみなければ分からない点があるので、ここでその予測は不可能である。

Crystal (2001:128) は e-mail の文体に大きな関心を寄せて、“E-mail has extended the language’s stylistic range in interesting and motivating ways.” (e-mail は言語の文体の範囲を興味深くかつ刺激的に広げた) と述べている。

3 誤用例

英米人の子供に誤りがあるからと言って、彼らが文法を知らないということではない。むしろ大いに身に付けているのである。例えば、日本の大学生が3単現の -s を付けないことが想像以上に多いのと比較すれば、ネイティブの子供はむしろきちんと身に付けている者の方が多いのである。

また、小学3年生くらいになると、日本の高校生が学習するような文法項目を使えるようになる。それを使った英文を日本の大学生に読ませると読めないこともある。

本稿は誤用例を多く示しているが、多くの子供たちはきちんとした英文を書いていることを最初に断っておかなければならない。本稿はネイティブの子供がどのあたりを間違うかを調査しているのであって、誤用例でもって彼らが文法を知らないと言っているのではない。彼らがどのようなところで間違うのかを知るのが本稿の目的である。

しかし子供の誤りは子供だけの誤りではない。子供がよく間違える綴りや文法は、大人ですら誤る箇所であることもある。つまり子供と大人の誤る箇所には共通点があるのである。

3.1 綴り

3節では類音、黙字、複数形、類語、及びアポストロフィと綴りの関係を見てみる。

3.1.1 類音と綴り

英語の綴りは音と一致しないので厄介である。発音が似ている語と間違える例がある。例文の [] 内の一番左側の数字は学年を示す。例えば、[3, Advice, p. 43] は grade 3 (小3) の子供が書いた英語である。なお、例文は文法的誤りや綴りの誤りがある場合でも、原文通りに引用してある。

(1) a. That night we went to eat dinner, and then we went to **are** hotel. [3, Advice, p. 43]

b. My parents had many problems like **are** neighbors. [3, Advice, p. 45]
are は正しくは our である。

(2) I got two **tea shrirts** to wear from Florida. [3, Advice, p. 44]

tea は全くの当て字で T-shirts が正しい。しかし e-mail には他の領域にはない遊び心が過剰に現れる傾向がある。意図的に滑稽味を出そうとすると、(2) のような例になる。この類例には kool (=cool), right (=write), i's (=eyes) のようなものがある。

次の例も当て字に思えるが、e-mail には短縮形の you're を your, 所有格の their を there と綴る例が観察される⁽²⁾。これも同音を用いて滑稽味を出そうとする e-mail の文体的特徴である。

(3) Do you have a friend that says **your** not his or her friend anymore. [3, Advice, p. 63]

- (4) a. ... the Spanish kings used to force **there** servants to recite this saying ten times very quickly. [1, Advice, p. 57]
 b. In **there** vidoes she looks so cool and walks by everything. [3, Advice, p. 60]

次は There を Their と綴っている例である。

- (5) **Their** are more cats in the whole world than dogs. [3, Advice, p. 73]
 次の例は fourth にすべきである。
- (6) On the **forth** and fifth day we went on Splash Mountain. [3, Advice, p. 43]
 次は音に合わせればこうなるのかもしれない。
- (7) I **alweys** leave Dimand with a smile on my face. [3, Advice, p. 81]

3. 1. 2 黙字と綴り

have の e は黙字なので表記されないことがある。誤りか意図的かは分からない。

- (1) a. I'm only 7 but two of my friends **hav** been in a divorce. [2, Advice, p. 66]
 b. I **havn't** gone sledding yet. I **havn't** seen any dogs yet either! [2, Advice, p. 1]
 c. I **hav** a bird and a cat. [3, Advice, p. 33]

*OED*²を見ると、have の異種綴りは haven, han, habe など29種類あるが、hav という綴りは歴史的には存在していない。e-mail によって初めて登場した綴りである。

黙字が省略されたケースは歴史的に見てもあるし、また16世紀に綴り字改革の中で、belev, deceiv, giv のように語尾の -e の削除が提案されたこともある (松浪 (1986: 85))。

know を黙字の k を落として now と綴る例が見られる。*OED*²を見ると、know の異種綴りには cnow, knowen, knaw など23種類あるが、必ず k が c が

付いており、kの省略された綴りは歴史的には一度もない。これも e-mail によって初めて登場した綴りである。

- (2) a. I **now** its kind of short. [2, Penpals, p. 89]
 b. Do you know why fire is hot? I wanted to **now** this for a long time. [3, Advice, p. 38]

今回使用したデータ以外も調べてみると、nowの例がある。

- (3) Do you know why fire is hot? I wanted to **now** this for a long time. [3, Kids Talk]

このように黙字は、文法的束縛が希薄な子供には、省略されることがある。

3. 1. 3 複数形と綴り

次の例は、子音字+yはyをiに変えてesという規則を知らないことから来ている。単に無知から来る誤りである。

- (1) ... when a whale comes the sharks run away, like **babys**. [1, News, p. 82]

3. 1. 4 類語と綴り

似ている語を間違える。次の例は動詞のbreatheにする。

- (1) Trees give out oxygen that we **breath**. [3, Advice, p. 14]
 別のデータの中にもあった。
 (2) I have asthma and sometimes find it hard to **breath** in to many places. [6, Kids Talk]

3. 1. 5 アポストロフィと綴り

主語とbe動詞の短縮形の場合アポストロフィが必要だが、これを落とすことがある。

- (1) a. **Its** not that I have anything against them. [1, Advice, p. 73]
 b. Well **thats** all for now!! [2, Advice, p. 20]

- c. I take Gymnastics **its** really fun! [3, Advice, p. 32]
- d. I wrote this story for all of you that know what **its** like to be in school.
[3, Advice, p. 61]

所有格のアポストロフィも落とすことがある。

- (2) a. Then my **friends** moms came to get them. [2, Advice, 60]
- b. My **coaches** name is Tammy. [3, Advice, p. 3]
- c. They slapped the **coaches** hands. [3, Advice, p. 79]
- d. My **teachers** name is Mrs. Walsh she is nice. [3, Penpals, p. 88]
- e. ... my **cats** name is Cuddles. [3, Penpals, p. 88]
- f. One warm day I went to my **friends** house. My friends were Shra and Michel [3, Advice, p. 44]

do と not の短縮形でもアポストロフィを落とすことがある。

- (3) a. They **dont** have the same birthday. [3, Penpals, p. 88]
- b. **Dont** worry. [3, Advice, p. 16]

以上のような例は誤用であるが、意図的に行っているとも考えられる。e-mailに頻繁に観察されるからである。この点でe-mailに特有の文体とも言える。今後e-mail特有の綴りとして確立し、他の分野に影響を与えていくのかは分からない。ただ、年齢が上がるにつれて、このような書き方は少なくなっているようである。

以上の例とは逆に、アポストロフィが不要なところに付けている例がある。これは誤りである。(4a)は見出しの例である。

- (4) a. 1'**st** grader getting started [1, Advice, p. 14]
- b. The whales right now are on their way to leave their baby'**s**. [1, News, p. 83]
- c. I am glad that I do not have any cassetes of them. (or cd'**s**) [3, Advice, p. 52]
- d. Sometimes my friend'**s** say I play too many sports. [3, Advice, p. 75]

次の例では'sが不要である。

- (5) Sometimes Mommy **let's** us sleep in a speacial place. [2, Advice, p. 36]

3. 2 文法

データでは文法の誤用は意外に少なかった。誤りはほとんどが初歩的なもので、大人が犯すようなものもある。

3. 2. 1 主語と動詞の数

主語の名詞句が複数個現れたとき単数形の動詞で受けたり、any, each を複数形の動詞で受ける誤りは大人にもある誤用である。

- (1) **Making camp, feeding the horses, and riding them is** so much fun. [3, Advice, p. 17]
- (2) a. If **any** of you **have** a suggestion ..., let us know. [2, Advice, p. 36]
 b. ... **each** of her parents **were** married to other people. [2, Books & Authors, p. 93]
- (3) It's very easy **all** you need **is** a few cardboard boxes and paint. [3, Advice, p. 52]

次の例はisが正しいのかareが正しいのか判断に迷う例である。

- (4) But maybe **your school and/or town is** different. [2, Advice, p. 40]

3. 2. 2 冠詞

データでは冠詞の間違いは意外に少なかった。

- (1) My favorite thing to do is head stands because I can stay for about **minute** and a half and sometimes two minutes! [3, Advice, p. 32]
 minuteの前にaが必要である。

3. 2. 3 代名詞

口語では *me* を *I* の代わりに使うことがあるが、次のような例では文法的には正しくない。

- (1) a. The first thing we (**me** and Dad) did was have breakfast. [2, Advice, p. 16]
 b. **Me**, my dad, and my mom were on a trip from Florida to Maine. [3, Advice, p. 21]
 c. **Me** and my brother sleep with them too. [3, Advice, p. 52]
 d. **Me** and my friend want to go to Words of Fun. [3, Advice, p. 74]

3. 2. 4 二重主語

主語が重なり合うのは、二重主語 (double subject) と呼ばれ、詩以外では誤りとされている。

- (1) a. ***Bob's brother he** took the car home.
 b. Bob's brother took the car home. —Berry(1986:34)
 データには二重主語の例として次の例があった。
- (2) a. **The sharks** in the water **they** never have to come out for air. [1, Advice, p. 83]
 b. **The hammer shark he** looks tough and has a head that looks like a hammer. [1, Advice, p. 82]

3. 2. 5 比較

big の最上級は *biggest* であるので、これに迂言変化形の *more*, *most* をさらに付けるのは正しくない。強調の場合にないわけではないが、次のような迂言形は避けなければならない。

- (1) The Blue Whale is the **most biggest** whale of all. [1, News, p. 83]

3. 2. 6 その他

データに現れたその他の誤用の例をあげてみる。

- (1) More books are **wrote** with cats in them than dogs. [3, Advice, p. 73]
wroteはwrittenにする。
- (2) **No** my brother and sister are not twins. [3, Penpals, p. 88]
文頭のNoは不要である。
- (3) All those **day** were fun. [3, Advice, p. 43]
dayにはsが必要である。
- (4) Well my cat is not in peace. Because of my dog. [2, Advice, p. 28]
... in peace because of ... とする。

4 おわりに

現在、急速に大人のみならず子供のコミュニケーションの手段としてe-mailの使用が増えている。そして一部の学者からe-mailの文体が注目を浴びている。

本稿は小1から小3のe-mailを収集し、彼らの犯す誤りを分析した。誤りには綴りと文法的な誤りがある。綴りの誤りは無知から来るものもあるが、e-mail特有の表現もある。文法においては初歩的な間違いが見られたが、文法的な誤りは意外に少なかった。

(注)

- (1) ホームページのアドレスは次の通りである。
Kids Talk <http://www.kidnews.com>
Kis on the Net <http://trace.ntu.ac.uk/kotn/gokids.htm>
小論で用いたデータは鈴木(2003)で使用したデータと同じ(181名分)であるが、このデータにさらに十数名分加えてある。
- (2) 詳しくは鈴木(2002:73)を参照。

REFERENCES

- Berry, T. E. 1986. *The Most Common Mistakes in English Usage*. Tokyo: McGraw-Hill Book Company.
- Crystal, David. 2001. *Language and the Internet*. Cambridge : Cambridge University Press.
- 松浪 有. 1986. 『英語史』. 大修館書店.
- 鈴木雅光. 2002. 「E-mailの特異な綴り」. 東洋大学文学部紀要 第55集 英語コミュニケーション学科篇 dialogos 第2号.
- _____. 2003. 「小学1年生から3年生の英語」. 東洋大学紀要『言語と文化』第3号. 東洋大学言語文化研究所設置準備委員会編.